

創業センターに
潜入!



ワカモノ記者、 起業する?!

市民が作る
市民編集
のページ
Vol.130

中央イベント広場の隣にある創業センターを知っていますか。今回の取材の舞台はこの創業センター。ここは一体どんな施設なのか、ワカモノ記者が潜入しました。

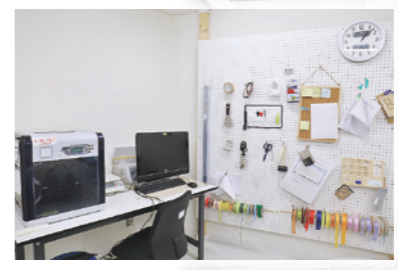
担当 小内香生流、熊木奏来、吉田綾野
固 産業政策課 ☎027-898-6983

どんな場所なの?

前橋で起業を目指す人や起業後間もない人をサポートする創業センター。1階はお試し創業ができるチャレンジショップ。2階と3階は貸し出し用のオフィス。4階はセミナーホールと商品の企画や試作ができるものづくりラボがあります。

低料金でオフィスや会議室を貸し出したり、定期的にセミナーを開催したりして、事業の実現と成長の後押しをしています。

取材当日は、新年度のオープニング記念で創業フェスタを開催。このような公開イベントを定期的に行い、施設の周知を図っています。



ものづくりラボ
3Dプリンターや工作機器を設置。アイデアを形にできる場所です。



チャレンジショップ
短期間のお試し創業ができる場所。実店舗で創業する前に活用できます。



セミナーホール
講座やセミナーを開催できるほどの広い空間を貸し出し。入居者向けのセミナーもここで行われます。

心強いサポートがここに

創業センターのさらなる魅力は人脈づくりのサポート。経営の専門家であるマネージャーにいつでも相談できたり、先輩起業家を紹介してもらえたりします。

「3人起業したい人がいれば三通りのパターンがある。それぞれの思いをくみ取って相談に乗っています」と、施設代表理事の田島宏明さん。施設を運営するのは、田島さんをはじめ市内の企業経営者や幹部で組織されている前橋起業支援センター。さまざまな業種の経営者がいるため、多くの分野で助言がもらえるのも心強いです。

今回、2人の起業家にお話を伺いました。現在センターに入居中の塚田順一さんは、システムエンジニアだった経験を生かして起業。高齢者向けのスマートフォン使い方講座や、子どもプログラミング教室を実施しています。



塚田順一さん



中林可貴さん

「起業のきっかけの一つは、お年寄りにスマホの使い方をお教えたから喜んでもらえたことでした。創業センターにいますと、まちや人とのつながりを感じます」

そしてもう一人は今年の春に創業センターを卒業した、画家の中林可貴さん。イベントでライブペインティングなどを行っています。東京からUターンで戻ってきたため、仕事をしながら前橋の人々とつながりをつくりたいと思ったことが、センターを利用するきっかけになったそうです。

「マネージャーのサポートや創業センターに入居する同じ起業仲間がいたから、安心して活動に打ち込むことができました」

塚田さんと中林さんの話のように、この創業センターでは人とのつながりを生み出していることが、大きな特徴なんです。

起業を支えるワケ

起業家への手厚いサポートが魅力的な創業センター。私たちワカモノ記者も起業ができるのではないかと感じるほどです。なぜ起業にここまで支援をするのでしょうか。

一つは、起業を将来の選択肢の一つとして若者に推奨しているため。国では創業事業への予算拡大も行われているのです。そしてその他に理由がもう一つ。それは、起業後3年は廃業しやすい傾向にあるという現実です。その原因は資金と人脈不足にあるそう。そこで創業センターでは、特に人脈面を重視しつながりを広げることにも力を入れているのです。

起業と聞くとハードルが高く、リスクも高いイメージ。しかし、この創業センターのように少しでも興味がある人が身近に相談できる施設があれば、将来の選択肢として考えられる機会が広がるのではないのでしょうか。無限の可能性がある起業。興味がある人はぜひ一度、創業センターに来てみてくださいね。

編集後記



起業に興味があるので、もしそうなったときには創業センターを利用したいです。(小内)



まちが起業家を支えるっていいこと。起業家が多いとまちも良くなりそう。(熊木)



これから支える若者が起業に興味をもったら、魅力的なまちになるのでは。(吉田)

SNSも
見てください!



Instagram



フェイスブック